166 号
Mar.
2026 年

# 1ドルPRESS

本日はご来場いただき誠にありがとうございます。横浜の桜も開花し、外へのお出かけが気持ちの良い時期になってまいりました。この 1 ドル PRESS は、当館のホールオルガニスト・インターン生とホールスタッフが、より多くの方にオルガンへ興味を持っていただきたいという想いで発信しています。ご覧いただけますと幸いです。



## 本日の出演者 東方理紗（とうほうりさ）さんへインタビュー

■本日のコンサートで注目してほしいポイントを教えてください！
今回は、横浜みなとみらいホールのオルガン“ルーシー”の魅力を活かせるようなプログラムを考えました。
ルーシーが持つ62種類のストップを使ってどのような音楽が奏でられるのか、ご注目いただければと思います。
鐘のような音や、鳥の鳴き声のような可愛らしい音も登場します。

■現在のマイブームは何ですか？
抹茶スイーツです。ヨーロッパではあまり手に入らないので、日本に帰国すると抹茶スイーツを探します。ドイツでは、フライブルクのマーケットで買うハーブティーを就寝前に飲むことが最近のブームです。

■ご来場のお客様へメッセージをお願いします。
春らしさを感じる季節となりました。本日は、「春」を思わせる作品やルーシーの魅力が伝わる作品を選びました。
ルーシーが生み出す音楽と共に、春の訪れを感じていただければ幸いです。



## ― インターンシップ21期 尾崎麻衣子の『ドイツ オルガン紀行』Vol. 4 ―

今回は、ドイツ北東部のバルト海に面した港町、シュトラールズント Stralsund にある聖ニコライ教会のオルガンをご紹介します。56ストップと3段手鍵盤とペダルを持つこのオルガンは、1841年にカール・アウグスト・ブーフホルツ Carl August Buchholz（1796-1884）によって製作されました。父親ヨハン・ジーモン Johann Simon Buchholz（1758-1825）からオルガン製作を学び、息子カール・フリードリヒ Carl Friedrich Buchholz（1821-1885）へとその技術を継承し、親子三代で製作したオルガンの数は約150台に上ります。カール・アウグストは多くの弟子を輩出し、古典派からロマン派への移行期に非常に重要な役割を果たしました。聖ニコライ教会のオルガンが彼の最大規模の作品です。鋭い音も含め、とても柔らかくて透き通った音色が空間全体を包み込むような、シンフォニックな響きが印象的でした。また、聖マリエン教会には17世紀中頃に著名なオルガン製作者 F.シュテルヴァーゲンが製作した、迫力と美しさを兼ね備えたオルガンもあります。シュトラールズントは、ハンザ都市ならではのレンガ造りの街並みが大変美しく、ヴィスマールと共に世界文化遺産に登録されています。ドイツ最大の島で自然豊かな人気リゾート地のリューゲン島とは橋で繋がっており、美味しいお魚料理を楽しみながら、ぜひバルト海に浮かぶ美しい街と歴史的なオルガンを巡ってみてはいかがでしょうか！





（上）聖ニコライ教会 （下）聖マリエン教会

～ インターンシップ 21 期 新田朝香の《オルガン知っトク情報》～



イラスト・文：新田朝香

# 今回は『オルガン奏者の持ち物と、本番前の準備』についてご紹介します

皆さんこんにちは。オルガニストインターンシップ生の新田です。今回は、オルガン演奏時の持ち物と、私が本番前に行う準備（習慣）をご紹介します。

## オルガニストならではの持ち物

**・付箋**

オルガンは演奏中に音色を変える操作を行います。その操作は主にアシスタントが行いますが、アシスタントと演奏者の双方が分かるように、楽譜に目立つ色の付箋を貼って目印にしています。また、音色を変える場所を示す以外にも、鍵盤が複数あるオルガンを演奏する場合には、ローマ数字で「何段目の鍵盤を弾くか」を書いた付箋を楽譜に貼ることもあります。

**・オルガンシューズ**

オルガンには足で演奏する「ペダル鍵盤」があります。そのため、専用のオルガンシューズを履いて演奏します。多くの曲は、かかととつま先の両方を使って演奏するため、靴底が薄く、かかとのある靴が特徴です。

**・ストップ（レジストレーション）メモ**

オルガンは会場ごとに楽器が異なるため、ストップ（オルガンの音色を選択する装置）の組み合わせを楽器に合わせて決めます。その組み合わせを決めることをレジストレーションと呼びます。限られたリハーサル時間を効率的に使うため、事前に組み合わせを書いたメモを作成し、そのメモを手元に置いて音色決めをすることもあります。

## 本番前ルーティーン（新田の場合）

**・アシスタントとのタイミングのイメージトレーニング**

オルガンの演奏では、ストップ操作を手伝ってくれる「アシスタント」がつくことがあります。音源を聴きながら、アシスタントと音色を変えるタイミングがぴったり合うように、事前に何度も頭の中でイメージトレーニングを行います。実際にアシスタントと一緒に楽譜を見ながらタイミングを確認することもあります。

**・ストレッチ**

オルガンは両手両足を使う楽器です。身体が固まっていると演奏もしづらくなるため、本番前には軽くストレッチをして身体をほぐしています。もともと力みやすいこともあり、最近は音楽大学で学んだアレクサンダー・テクニーク（心身の不必要な緊張を手放し、本来の動きを取り戻すための教育法）も取り入れ、よりリラックスした状態で演奏できるよう心がけています。

## まとめ

このように、オルガンの演奏には少しユニークな持ち物や準備の仕方があります。場所によって規模や音色が異なり、音色の組み合わせも無数にあるオルガンと、オルガン奏者は毎回新鮮な気持ちで向き合います。

インターンふたりの活動はブログなどでもご紹介しています。
4 月まで、活動の様子を温かく見守ってくださいね。

ブログは
こちらから▸

## ～オルガン公演のご案内～

オルガン界を牽引する世界屈指のトップアーティスト、パリ・ノートルダム大聖堂の首席オルガン奏者がついに登場！

**横浜みなとみらいホール オルガン・リサイタル・シリーズ 49　オリヴィエ・ラトリー オルガン・リサイタル**

**2026 年 4 月 29 日(水・祝) 14:00 開演（13:20 開場）大ホール**

演奏曲　J. S. バッハ/H. メスレー編曲：シャコンヌ（無伴奏ヴァイオリンのためのパルティータ 第 2 番より）
L. ヴィエルヌ：ウエストミンスターの鐘　O. ラトリー：即興演奏　ほか

全席指定　一般 4,500 円　大学生・障がい者手帳をお持ちの方＊ 3,000 円　高校生以下 2,500 円




■お問合せ■ 横浜みなとみらいホールチケットセンター　０４５-６８２-２０００
電話予約 10:00～17:00　窓口販売 11:00～18:00（休館日・保守点検日を除く）